



浪速区の 都市景観資源紹介

浪速区の 都市景観資源紹介

大阪市では、平成 15 年度に浪速区の都市景観資源（旧・指定景観形成物）を 1 件登録するとともに、平成 27 年度に浪速区の都市景観資源の発掘のため、「わがまち自慢の景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成 29 年 3 月 17 日に 26 件を都市景観資源に登録しました。

A 通天閣



- **所在地** 大阪市浪速区恵美須東 1 丁目 18 番 6 号
- **登録年月日** 平成 15 年 4 月 11 日
- **概要** 通天閣は、明治 45 年（1912 年）内国勧業博の会場跡に新世界・ルナパークとともに完成。昭和 18 年（1943 年）火災にあい、鉄材供出により解体され姿を消したが、地元の熱い思いを受けて、昭和 31 年（1956 年）に 2 代目通天閣が再建された。高さ 108m、円形エレベーター、展望台が設置されており、平成 8 年（1996 年）の改修によりリニューアルされたネオンは、交通安全の標語、天気予報にも活用されている。

1. 赤手拭稲荷神社



■ 所在地 大阪市浪速区稲荷 2 丁目 6 番 26 号

■ 登録年月日 平成 29 年 3 月 17 日

■ 概要 創祀は慶長年間（1596 年頃）、御祭神は豊受天大神（とようけのおおかみ）、猿田彦大神（さるたひこおおかみ）、宇受売神（うずめのおおかみ）、倉稲魂命（うがのみたまのみこと）、大山祇神（おおやまつみのみこと）

慶長年間の頃は、この辺りは堤防でその上に大きな老松があり、土地の人は波除松とよんでいた。その松の下に祀られていたので、当初は松の稲荷と呼ばれていた。この稲荷はたいへん靈験あらたかで参詣の方がたえず、そのうち誰がはじめるともなく社前に赤い手拭いをお供えするようになり、いつしか「赤手拭稲荷神社」という名で世に広まったということである。

もとは無格社だったが、明治 42 年（1909 年）6 月 4 日に泉南郡東鳥取村大字鳥取中宇西の原の村社稲荷神社の倉稲魂命、大山祇神を合祀して村社となった。かつての社殿は昭和 20 年（1945 年）の大阪大空襲で焼失し、現在の社殿は昭和 23 年（1948 年）に再建されたものである。

また古典落語の「ソロソロ」の舞台となった神社としても知られている。

2. 今宮戎神社



■ 所在地 大阪市浪速区恵美須西 1 丁目 6 番 10 号

■ 登録年月日 平成 29 年 3 月 17 日

■ 概要 天照皇大神・事代主命・外三神が祀られている。かつては海岸沿いにあり、このような海辺で物資の集まりやすい土地では、いわゆる「市」が開かれるが、その市の守り神としても戎さまが祀られるようになった。

室町時代以降庶民の信仰はより厚くなり、また大阪の町も発達し、大阪町人の活躍が始まる。江戸期になると大阪は商業の町としてより一層の繁栄を遂げ、それと期を一にして今宮戎神社も大阪の商業を護る神様として篤く崇敬されるようになった。十日戎の行事もこの頃から賑わいをみせ、さらに元禄期になると十日戎の祭礼を彩る宝恵駕（ほえかご）の奉納も行われるようになり今日と同じような祭礼となった。

現在では、1 月 9・10・11 日の三日間の祭礼で約 100 万人の参詣者があり、大変な賑わいをみせてくれる。

3. 阪堺線 (浪速区)



- **所在地** 大阪市浪速区恵美須西2丁目、3丁目
- **登録年月日** 平成29年3月17日
- **概要** 阪堺電車は大阪で唯一の路面電車として、また市民の生活の足として親しまれている。恵美須町から堺市の大小路を結ぶ阪堺線は明治44年(1911年)に開通、その翌年には浜寺駅前まで全線が開通し、平成23年(2011年)に100周年を迎えた。単なる公共機関としてだけではなく、カラフルで愛らしい車両、昭和の薫りたどる沿線の表情が鉄道ファンをはじめ多くの人々に愛され続けている。

4. 新世界市場



- **所在地** 大阪市浪速区恵美須東1丁目
- **登録年月日** 平成29年3月17日
- **概要** 地下鉄恵美須町駅3号出口を出て、通天閣本通商店街を通天閣に向かって歩く途中の右手に市場の入口がある。約150mの屋根付きの商店街。和菓子や銘茶の老舗、こだわりの弁当屋や漬物店、履物屋兼世界的なジャズレーベルなど個性的な店舗が軒を重ね、100年以上の歴史を誇る地元根付いた市場である。開設：大正3年(1914年)7月、再建：昭和21年(1946年)9月。

5. 通天閣本通商店会



- **所在地** 大阪市浪速区恵美須東1丁目
- **登録年月日** 平成29年3月17日
- **概要** 地下鉄恵美須町駅3番出口から通天閣の北側まで延びる約200mの商店街。古くからある店が多く、喫茶店に飲食店、食料品や衣料品店舗などが軒を重なる。通りの方は、アーチ型のアーケードにカラータイル舗装で、パリのショッピングモールを真似てつくられた。明治45年・大正元年(1912年)の新世界創設の頃から、恵美須通として栄え、昭和31年(1956年)の二代目通天閣再建を機に通天閣本通と改め、食の都大阪ならではの飲食店を中心に、物販など多彩な商店街として賑わっている。